

日本海東縁の大地震に注意

津波到達早く備え必要

専門家摘 本県も過去に類似例

日本海東縁は過去にも、津波を伴う地震が繰り返し発生してきた領域だ。1964年の新潟地震、83年の日本海中部地震、93年の北海道南西沖地震など、いずれも地震の規模はマグニチュード(M)7以上を観測している。今回の地震の特徴に



小菅正裕教授

専門家によると、今回の地震は「日本海東縁のみ集中帯」と呼ばれる日本海沿岸部で発生したとされ、地殻を東西に押す力が働き、断層がずれ動いた「逆断層型」とみられる。

新潟・山形地震1週間

新潟県で最大震度6強を観測した新潟・山形地震から25日で1週間となり、各地で被害確認などが進められている。日本海東縁の大地震はこれまでも例があり、200年以上前までさかのぼると、本県でも鰯ヶ沢町や深浦町を中心に被災した大地震「寛政西津軽地震」の記録が残る。専門家は、本県付近でも大きな地震が発生する可能性があることや、日本海東縁の地震は津波の到達が早いことを指摘し、「備えが必須」と注意を呼び掛ける。

(成田真由美)

ついで、弘前大学大学院理工学研究科の小菅正裕教授(63)は「海岸線に近い場所に震源があったことで、津波の到達が早かった」とし、本県を襲った歴史的大地震を類似例として挙げる。寛政西津軽地震(93年2月8日)は、大戸瀬崎(深浦町)から約13キロ沖合が震源で、地震の規模はM6・9、推定震度は最高3・5が隆起し、

浦・鰯ヶ沢で6、弘前も5程度だったという。即刻津波も発生し、人や家屋が流されたり、日本海中部地震より陸に近い場所が震源で、即刻津波が発生した」とその恐ろしさを解説する。その上で、日本海東縁に震源がある地震について、「最も大きな特徴は津波到達が早い」と記されており、現在、深浦町の観光名所として知られる「千畳敷海岸」の形成にもつながったほどだ。

小菅教授は「津軽の地震としては有名な例。日本海中部地震よりも陸に近い場所が震源で、即刻津波が発生した」とその恐ろしさを解説する。その上で、日本海東縁に震源がある地震について、「最も大きな特徴は津波到達が早い」と

※この画像は当該ページに限って
陸奥新報社が利用を許諾したものです。
[問合せ先]弘前大学理工学研究科
E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp